

# 弘前大学学報



弘前大学 正門

第 141 号  
平成27年12月号

---

## 目 次

---

### 学内ニュース

○弘前大学起業家塾（第4回）を開催	1
○第12回 COI 特別講演会を開催	2
○人文学部3年生「第11回 日銀グランプリ」にて最優秀賞受賞	3
○学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム6大学合同シンポジウム開催	5
○函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」を開催	7
○文部科学省 松尾大臣官房参事官を講師に 「研究活動における不正防止に関する講演会」を開催	8
○「ひろだいパワーアップカンファレンス ～弘前大学のこれからの担う人財力を考えよう！～」を開催	9
○「推薦入試I・AO入試合格者の入学前交流プログラムを開催	10
○平成27年度文化庁長官表彰受賞教育学研究科2年 斎藤和彦さんが学長へ報告	11
○第13回 COI 特別講演会を開催	12
○弘前大学起業家塾（第5回）を開催	13

諸 会 議	14
-------	----

### 人 事

○人事異動	16
-------	----

主要日誌	18
------	----

学内規則	19
------	----

## 弘前大学起業家塾（第4回）を開催

平成27年12月2日（水）、弘前大学総合教育棟3階306講義室において、「弘前大学起業家塾」を開催しました。

研究・イノベーション推進機構では、大学のもつシーズを活用したベンチャーの創出と地域産業の発展及びイノベーションの創出に向けて、学生や若手研究者の起業（VB）を促進することを目的とした「弘前大学起業家塾」を今年度よりスタートさせました。

今回は日経BP社 特命編集委員・株式会社宮田総研 代表取締役社長 宮田満氏による「地方を元気にするベンチャー企業」およびフューチャーベンチャーキャピタル株式会社 北日本投資部 青森事務所長 外山和恵氏による「覚悟から考える起業・責任から考える資金調達」と題し、それぞれご講演いただきました。宮田氏からは、世界で活躍してこられたご自身の経験から、日々変化する社会に対応する視点と先を見据えた行動をとる必要性や、鶴岡市での成功事例をご紹介いただき、外山氏からは、起業家を志す者が「自分に問いかけてほしい10の質問」に沿って、事業計画と資金調達のあり方を解説していただきました。

当日は学生、教員、学外研究者、企業関係者など約50名が聴講し、講演後も塾生から宮田氏、外山氏に多数の質問が寄せられるなど、熱心な意見交換が行われました。



講演する宮田満氏



講演会の様子



## 第 12 回 COI 特別講演会を開催

平成 27 年 12 月 4 日（金）、弘前大学大学院医学研究科基礎棟大講義室において、九州大学大学院医学研究院附属 総合コホートセンター教授 二宮利治 氏を講師にお招きし、「久山町研究の最前線」と題した特別講演会を開催しました。

本学は文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」に採択され、「略称：革新的『健やか力』創造拠点」として、企業および自治体とアンダーワンルーフの下「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」を進めております。本講演会は、この活動を推進するにあたり、更なる知見を深めることを目的に実施しているもので、今回で 11 回目の開催となります。[第 9 回中止]

講演会では、久山町における疫病発症情報の追跡調査方法（前向きコホート研究）、中年期血圧と老年期血圧・喫煙習慣・血糖レベル・食事パターン・運動習慣などによる認知症の発症リスク、久山町研究で同定された認知症の危険因子と防御因子など、久山町におけるコホート研究の様々な取り組みについてご講演いただきました。

当日は約 80 名の一般の方、学生や教職員、企業等関係者が聴講し、講演後にも二宮先生に個別に質問を行い、熱心に意見交換がされていました。

今後、本拠点ではコホート研究等への知見を深め一層強化し、COI 事業を展開する予定です。



挨拶する中路重之研究リーダー



講演する九州大学 二宮利治先生



質問する聴講者



熱心に聞き入る聴講者

---

## 人文学部 3 年生「第 11 回 日銀グランプリ」にて最優秀賞受賞

金融分野の大学生論文コンテスト「第 11 回 日銀グランプリ」の本選が、12 月 5 日（土）、東京の日本銀行本店で行われました。全国の大学 109 チームから選ばれた上位 5 チームによる本選です。今回、人文学部経済経営課程（経済学コース）の学生チームがこの上位 5 チームに選ばれ、本選に進みました。当日は、日本銀行副総裁をはじめとする 5 名の審査員を前に、プレゼンテーションと厳しい質疑応答に臨みました。

審査の結果、弘前大学人文学部チームが、本選進出 5 チーム中の「最優秀賞」に選ばれました。東北・北海道の大学で最優秀賞に選ばれたのは初めてのことです。

論文のタイトルは「地方中小企業向け『健康プログラム』の可能性～医学（社会疫学）と行動経済学の知見をふまえて～」です。職場の健康改善は、地域、特に青森県の大きな課題です。また、大都市の一部の大企業は自主的に取り組み、企業に非常に大きな利益をもたらすことも分かっています。人文学部の学生チームは、職場の健康に関する現状と課題を研究し、提言をまとめました。

研究は人文・社会科学の考え方を総合して進められました。健康においては、「分かっているけど改められない」のが人間であり、「善意だけでは動かない」のが企業です。これらを解決する金融の仕組みを設計し、同時に、熱意のこもったプレゼンテーションを行ったことが高評価につながったようです。

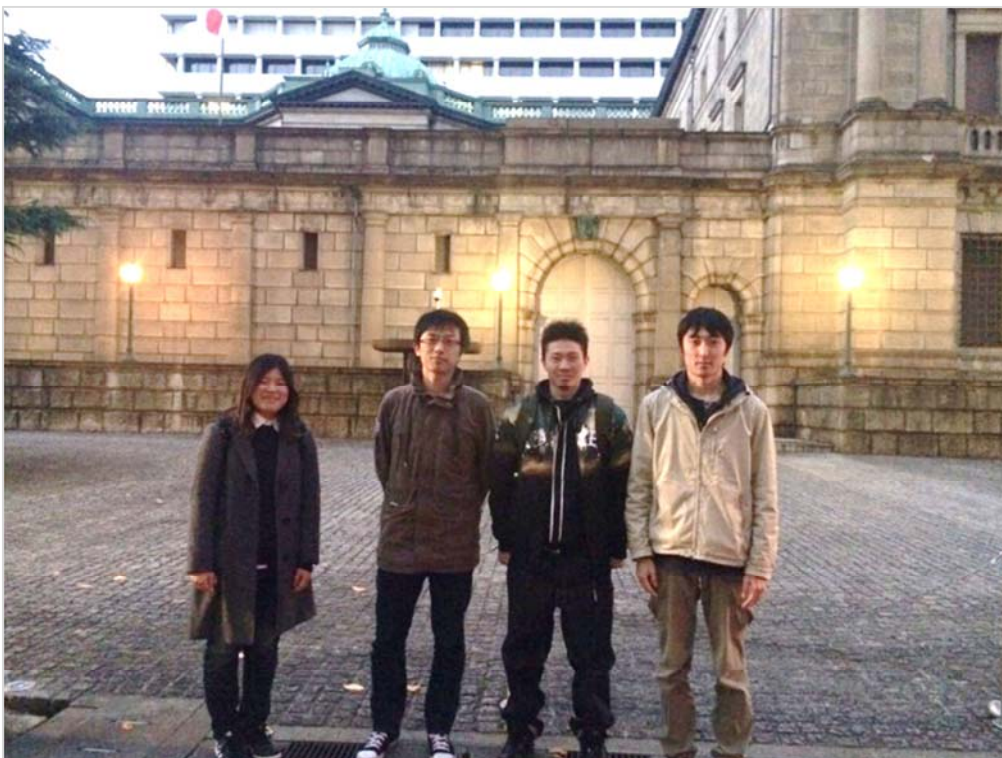
参加した学生は、「以前は自分がこんな研究に携わるとは想像もしなかったが、一生懸命研究を進めて、しかもそれが評価されてうれしい（リーダー 田中沙織さん）」「緊張したが、あえて自分を追い込んで発表に臨んだ。金融のプロを前にして、わくわくした。提案を今後実践する企業が出てくれば（発表者 早坂友佑さん）」と語りました。

なお、この研究は青森県の「学生発未来を変える挑戦」、弘前市の「市民研究員」に採択され、インタビュー調査費の支援を受けています。それが仕組みの改善につながりました。

若い発想が社会を良い方向に動かします。弘前大学人文学部は、地域の支援も受けながら、学生の若い発想を活かした研究活動を奨励しています。



人文学部 飯島裕胤<sup>ひろつぐ</sup>教授（左上）とリーダーの田中沙織さん（前列中央右）、  
発表者の早坂友佑さん（前列中央左）と学生チームの皆さん



日本銀行前にて



---

## 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム6大学合同シンポジウム開催

弘前大学を含む弘前市内の6大学が加盟している学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムでは、「6大学合同シンポジウム」を平成27年12月6日（日）に土手町コミュニティパークで開催しました。

今年度で4度目となる本シンポジウムは、「健康と子育て支援～市民が創る地域包括ケアの街～」をテーマに、超高齢化社会に対応するため在宅医療や医療介護連携システムとともに、地域の特色を活かしながら住民と医療保健福祉専門職、行政等が協働でおこなう保健福祉の街づくりである地域包括ケアシステムの構築について市民が考える機会とすることを目的に開催し、市民、学生、地域包括・在宅介護支援センター職員、行政関係者、大学関係者合わせて約150名が参加しました。

本シンポジウムでは、東京都大田区地域包括支援センター入新井センター長 澤登久雄 氏と東京都新宿区暮らしの保健室室長 秋山正子 氏を講師にお招きし、それぞれ活動する地域での地域包括ケアの取り組みについての講演が行われました。また、パネルディスカッションでは、同講師2名に加え、弘前市健康福祉部介護福祉課長 須藤悟 氏、NPO法人弘前こどもコミュニティ・ぴーぶる代表理事 清野真由美 氏、弘前医療福祉大学保健学部看護学科准教授 大沼由香 氏の5名をパネリストとし、行政、NPO法人、個人の視点から地域包括ケアの街づくりに関する意見交換が行われました。

参加者は地域包括ケアの分野で、第一線で活躍する講師やパネリストの話に真剣に耳を傾け、「普段聞く事が出来ない話を聞く事ができ大変勉強になった」「私達が住む地域でも地域包括ケアのネットワーク作りが必要だと感じた」「住民主体の地域作り、アクションを起こすこと、それを継続していくことの大切さを感じた」と話していました。



主催者挨拶を述べる佐藤敬学長



来賓挨拶をする蝦名正樹弘前副市長



澤登久雄氏による基調講演



秋山正子氏による基調講演



行政の取り組みについて説明をする須藤悟課長



## 函館市長による講演会

「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」を開催

弘前大学では、幹部級職員を主な対象とした社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業の第11回目として、函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」を、平成27年12月7日（月）に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで開催しました。

この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、平成28年3月、北海道新幹線が開業することを機に、更なる青函交流が行われている函館市を中心とした道南地域の将来ビジョンに関する見識を深めることを目的として開催されました。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、本学学生及び弘前市役所職員、弘前商工会議所職員など、学内外合わせて約300名が出席。講演者の工藤壽樹 函館市長は、函館観光の状況及びインバウンドの現状や函館観光の取組と成果についての説明から始まり、平成12年度から台湾や中国へのトッププロモーションを開始した結果、平成24年度に台湾からの定期便開設で急激に外国人観光客数が伸びたこと、函館市公式観光サイトの11言語対応などで、外国人観光客は平成24年度に約18万人、平成26年度には約35万人に増加し、今年度は約45万人を超える見通しであると述べられました。また、インバウンドの今後の取組として、東南アジア諸国へのプロモーションやWi-Fi環境の整備、電子マネーやクレジットカードが利用できる施設などの充実が必要であるとの意見を述べられました。

さらに、北海道新幹線開業に向けた取組などについての説明があり、15年後の札幌延伸を含め、観光における「東日本ゴールデンルート（東京－青函－札幌）」を構築するためには、東北全体と函館が連携したルート作りが必要であり、新幹線開業を機に、青森県、弘前市及び、本学との連携を強化できればと今後の展望を述べ、講演会は大盛況のうちに終了しました。



講演する工藤壽樹函館市長



講演に耳を傾ける参加者

文部科学省 松尾大臣官房参事官を講師に  
「研究活動における不正防止に関する講演会」を開催

弘前大学では、平成27年12月8日（火）、文部科学省 松尾泰樹 大臣官房参事官を講師にお迎えし、「研究者の行動規範 ～適正な研究活動と研究不正防止に向けて～」をテーマにご講演いただきました。

この講演会は、本学教職員の研究活動における不正防止や研究倫理に対する見識を深めることを目的として開催されたもので、講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議会評議員、事務職員など約40名が参加しました。

松尾参事官からは、文部科学省における「研究活動の不正行為」「研究費の不正使用」に関するガイドラインの見直し・検討に携わられたご経験を踏まえ、研究者を取り巻く状況や、ガイドライン見直しの視点など制度設計に当たっての理念など非常に熱のこもったご講演をいただきました。その中で、研究不正は研究者個人の問題だが、研究公正のマネジメントは、大学として適正に対応・取り組むことが重要である等の示唆に富むあたたかいご助言がありました。

大学改革に関しては、大学を取り巻く情勢や主な課題への対応について、国の最新の政策等について紹介され、参加者は熱心に聴き入っていました。

また、講演後には、佐藤学長自ら質問するなど活発な意見交換が行われ、講演会は盛況のうちに終了しました。

引き続き、研究担当理事のもと開催された研究戦略企画会議へご出席頂き、国立大学の機能強化、人工知能、IoT研究等、国の新たな政策動向についての紹介があり、また、本学の研究力強化への具体的な提言をいただくなど大変有意義な意見交換の場となりました。



講演する松尾泰樹 大臣官房参事官



佐藤敬学長との意見交換の様子

「ひろだいパワーアップカンファレンス  
～弘前大学のこれからの担う人財力を考えよう！～」を開催

平成 27 年 12 月 9 日（水）に、弘前大学若手職員の企画による「ひろだいパワーアップカンファレンス～弘前大学のこれからの担う人財力を考えよう！～」を開催し、本学若手職員 22 名と本学学生 11 名が参加しました。

「ひろだいパワーアップカンファレンス」は、学生とともに大学を盛り上げていきたいと考えた若手職員らが平成 26 年度から実施している『学生と事務職員で取り組む、新しい大学』プロジェクトの一環として企画され、「弘前大学のこれからの担う人財力を考えよう！」をテーマに、これからの弘前大学に必要な人財力を職員・学生ともに実感し、今後大学改革に協働で取り組んでいくきっかけとすることを目的に実施されました。

佐藤学長による講演と、他大学における取組事例を紹介した後、4 班に別れて、「学生・地域と大学のできる取り組みとは？」をテーマとしたワークショップを行いました。

参加者からは「もっと職員と交流したいと思えるようになった」「学生や地域の人視点で考えることの重要性を実感した」等の感想が寄せられました。



佐藤敬学長による講演



若手職員による他大学での取組事例紹介



ワークショップの様子



---

## 推薦入試 I ・ AO 入試合格者の入学前交流プログラムを開催

12月11日（金）、弘前大学文京町キャンパスにおいて「推薦入試 I ・ AO 入試合格者の入学前交流プログラム」を行いました。

このプログラムは、推薦入試 I ・ AO 入試合格者及びその保護者を対象に、入学前に教員や学生と触れあい、大学生活への不安をやわらげるとともに入学前学習の動機づけにつなげることを目的に行うものです。

当日は、4学部（人文学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部）の合格者（約7割）と保護者の合計約150人もの方のたくさんの方が参加しました。

ガイダンスでは、伊藤成治副学長兼教育担当理事のビデオ出演による挨拶の後、①入学前教育プログラム、経済支援、課外活動など大学全体に共通する内容を扱った全体ガイダンス、②教育課程等の概要や入学前の準備学習、就職関係等の説明、教員・先輩学生との交流会、校内見学など、学部の特徴に応じた内容を扱った学部別ガイダンス、その他希望者を対象にした寮見学といった多岐にわたり喜ばれるものとなりました。

参加者からは、「先輩方との交流がとても良かった」、「高校と大学での勉強方法の違いが分かった」、「今後も続けてほしい」等の声が多く寄せられ、有意義な一日となりました。



伊藤成治副学長のビデオレター



先輩のお話



教員、先輩学生、合格者、保護者との懇談会



平成 27 年度文化庁長官表彰受賞  
教育学研究科 2 年 齋藤和彦さんが学長へ報告

12 月 14 日(月)、文化庁が文化振興に貢献した個人や団体に贈る平成 27 年度文化庁長官表彰を受賞した教育学研究科美術教育専修 2 年の齋藤和彦さんが、指導教員の石川善朗教授と共に、佐藤学長へ受賞の報告を行いました。

日本文化財漆協会常任理事で津軽塗職人でもある齋藤さんは現在 56 歳。昨年、弘前大学教育学研究科に入学し、石川善朗教授のもとで地域の工芸品に関する技術及び開発について指導を受けています。今回の受賞功績は、長年にわたり、同協会の要職にあって、選定保存技術「日本産漆生産・精製」の保存・伝承事業を推進し、文化財保護に多大な貢献をした点が認められたものです。

齋藤さんは、「漆という日本の伝統的な工芸に対し、若い人たちをはじめ多くの人に興味を持ってもらえる手伝いが少しでもできれば」と、後輩へメッセージを寄せています。

なお、本表彰には齋藤さんの他にも EXILE のリーダー HIRO さんら計 43 名が選出され、12 月 11 日(金)、文化庁にて表彰式が行われました。



表彰状を手にする齋藤和彦さん



表彰式後の全体写真（齋藤さんは前列一番右）



佐藤敬学長㊦に報告する齋藤さん㊥と  
指導教員の石川善朗教授㊧

### 第13回 COI 特別講演会を開催

平成27年12月15日(金)、弘前大学大学院医学研究科基礎棟大講義室において、東京工業大学大学院生命理化学研究科生命情報専攻 講師 山田拓司 氏を講師にお招きし、「腸内細菌研究の最前線」と題した特別講演会を開催しました。

本学は文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」に採択され、「略称: 革新的『健やか力』創造拠点」として、企業および自治体とアンダーワンルーフの下「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」を進めております。本講演会は、この活動を推進するにあたり、更なる知見を深めることを目的に実施しているもので、今回で12回目の開催となります。[第9回中止]

講演会では、今話題の腸内細菌について、ヒト腸内細菌とそのメタゲノム解析、腸内細菌叢の代謝経路のデータベース化、産業応用プラットフォーム「JCHM」のプロジェクト活動や腸内細菌のボードゲーム開発など最新の腸内細菌研究の様々な取り組みについて、ご講演いただきました。

当日は約80名の一般の方、学生や教職員、企業等関係者が聴講し、講演後にも山田先生に個別に質問を行い、熱心な意見交換がされていました。

今後、本拠点ではコホート研究等への知見を深め一層強化し、COI 事業を展開する予定です。



挨拶する中路重之研究リーダー



講演する東京工業大学 山田拓司先生



質問する聴講者



熱心に聞き入る聴講者

---

## 弘前大学起業家塾（第5回）を開催

平成27年12月22日（火）、弘前大学総合教育棟4階406講義室において、「弘前大学起業家塾」を開催しました。

研究・イノベーション推進機構では、大学のもつシーズを活用したベンチャーの創出と地域産業の発展及びイノベーションの創出に向けて、学生や若手研究者の起業（VB）を促進することを目的とした「弘前大学起業家塾」を今年度よりスタートさせました。

今回は東京大学名誉教授俯瞰工学研究所代表 松島克守 氏による「イノベーションの起こし方」と題しご講演いただきました。松島氏からは、イノベーションの起こし方として、組織として「知の探索」と「知の深化」のバランスを保ち、戦略・体制・ルールを作る事、5年で業界に何が起こりうるか想像すること、戦略の実装を行うこと等について解説していただきました。

当日は学生、教員、学外研究者、企業関係者など約40名が聴講し、講演後も塾生から松島氏に多数の質問が寄せられるなど、熱心な意見交換が行われました。



東京大学名誉教授俯瞰工学研究所代表 松島克守 氏による講演の様子

---

## 諸会議

### ▼役員会

12月7日（月）

#### 審議事項

1. 国立大学法人弘前大学職員安全衛生管理規定の一部改正について
2. 弘前大学学則の一部改正等について
3. COI 研究推進機構 専任教員の採用について
4. 寄附講座の設置期間延長について

#### 報告事項

1. 第3期中期目標・中期計画（素案）の修正について
2. 国立大学における卓越研究院制度の活用予定について
3. 弘前大学教員の研究業績について
4. 国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議の開催について
5. 平成27年度弘前大学と弘前市の連携推進会議の開催について

12月21日（月）

#### 審議事項

1. 弘前大学医学部附属病院放射線障害予防規程等の一部改正について

#### 報告事項

1. 弘前大学(緑ヶ丘)北溟寮改修整備事業完了に伴う内覧会の開催について
2. 原子力災害医療・総合支援センター及び高度被ばく医療支援センターの始動について
3. 日経グローバル「大学の地域貢献度に関する全国調査2015」について
4. JTB「社会との接点」としての教育旅行の受入について
5. 旧制弘前高等学校外国人教師館の活用について
6. ダンスイベント「DANCE JUNCTION」及び「Red Bull BC One Japan Cypher 2016」の開催について
7. 「平成26年度決算検査報告説明会（会計検査院）」について

### ▼教育研究評議会

12月8日（火）

#### 審議事項

1. 弘前大学学則の一部改正等について
2. 弘前大学教員免許状更新講習実施規定の一部改正について
3. 寄附講座の設置期間延長について



---

## 報告事項

1. 教員の採用等について
2. 第3期中期目標・中期計画（素案）の修正について
3. 平成28年度AO入試，推薦入試，社会人入試の実施状況について
4. 平成28年度大学入試センター試験における本学の志願者割当数について
5. 国立大学における卓越研究院制度の活用予定について
6. 弘前大学教員の研究業績について
7. 平成28年度科学研究費助成事業の申請状況について
8. 平成27年度弘前大学と弘前市の連携推進会議の開催について
9. 農学生命科学部と中国瀋陽農業大学園芸学院との部局間協定の締結について
10. ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園研究所との国際共同セミナーの開催について
11. 弘前大学被ばく医療総合研究所創立5周年記念講演会について
12. 食料科学研究所と学校法人野又学園函館短期大学付設調理製菓専門学校との連携・協力に関する協定の締結について
13. 資料館第9回企画展開催に関するお願い
14. 委員会等報告
  - (1) 教育委員会（11月25日開催分）
  - (2) 21世紀教育センター運営委員会報告（11月19日開催分）
  - (3) 教員免許状更新講習支援室運営委員会・教員免許状更新講習実施委員会合同会議（11月5日開催分）
15. 原子力災害医療・総合支援センターとしての担当地域について

## ▼教育委員会

12月25日（金）

### 審議事項

1. 弘前大学学則の一部改正等について
2. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する学生に対する教職員対応要領における留意事項について
3. その他

### 報告事項

1. 平成27年度岩谷元彰弘前大学育英基金選考結果について
2. ゆめ応援プロジェクト選考結果について
3. 平成27年度日本学生支援機構奨学生の臨時採用について
4. その他

## 人 事 異 動

### [採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年12月01日		稲田 シュンコ アルバーノ	助教(自然科学系/安全システム工学領域/大学院理工学研究科専任担当)
H27年12月01日		花田 慶乃	臨床工学技士(病院・医技)
H27年12月01日		黒滝 梨帆	臨床工学技士(病院・医技)
H27年12月16日		福井 幸子	助教(COI研究推進機構) [H28. 3. 31まで]

### [任期更新]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年12月14日	教諭(教育・特支)	勘林 秀平	教諭(教育・特支) [H28. 3. 31まで]
H27年12月16日	助教(医学系/臨床医学領域/医学部附属病院専任担当)	泉山 圭	助教(医学系/臨床医学領域/医学部附属病院専任担当) [H27. 12. 31まで]

### [命]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年12月01日	教授(COI研究推進機構)	村下 公一	副理事 [H28. 1. 31まで]

### [育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年12月01日	主任(総務・総務)	工藤 かおり	育児休業期間延長 [H28. 4. 15まで]
H27年12月03日	看護師(病院・看護)	石岡 恵津子	育児休業開始 [H28. 3. 31まで]
H27年12月10日	看護師(病院・看護)	小山内 愁子	育児休業開始 [H29. 3. 31まで]
H27年12月12日	看護師(病院・看護)	葛西 美里	育児休業開始 [H29. 3. 31まで]
H27年12月14日	教諭(教育・特支)	米持 里美	育児休業開始 [H29. 3. 31まで]

### [休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年12月01日	主任(医)	和田 丈稔	期間延長 [H27. 12. 31まで]
H27年12月01日	看護師(病院・看護)	大沢 美紗姫	期間延長 [H28. 1. 31まで]
H27年12月16日	助教(医学系/臨床医学領域/医学部附属病院専任担当)	花田 賢二	期間延長 [H27. 12. 31まで]
H27年12月24日	係長(病院・総務)	酒井 篤史	休職開始 [H27. 12. 31まで]

H27年12月25日	教授（自然科学系／安全システム工学領域／大学院理工学研究科専任担当）	児玉 安正	期間更新〔H28.3.7まで〕
H27年12月26日	係長（施設・環安）	栗尾 員徳	休職開始〔H28.1.20まで〕

**[離職]**

発令年月日	現職（所属）	氏名	異動内容
H27年12月31日	助教（医学系／臨床医学領域／大学院医学研究科専任担当）	松橋 有紀	辞職
H27年12月31日	助手（医学系／臨床医学領域／大学院医学研究科専任担当）	毛内 奈津姫	辞職
H27年12月31日	助手（医学系／臨床医学領域／大学院医学研究科専任担当）	佐竹 美和	辞職
H27年12月31日	教諭（教育・附中）	小野 春美	任期満了

---

## 主要日誌

- 1 2月 2日 弘前大学起業家塾（第4回）を開催
- 4日 第12回 COI 特別講演会を開催
- 5日 人文学部3年生「第11回 日銀グランプリ」にて最優秀賞受賞
- 6日 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム6大学合同シンポジウム開催
- 7日 函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」を開催
- 8日 文部科学省 松尾大臣官房参事官を講師に  
「研究活動における不正防止に関する講演会」を開催
- 9日 「ひろだいパワーアップカンファレンス  
～弘前大学のこれからを担う人財力を考えよう！～」を開催
- 1 1日 推薦入試I・AO 入試合格者の入学前交流プログラムを開催
- 1 4日 平成27年度文化庁長官表彰受賞教育学研究科2年 斎藤和彦さんが学長へ報告
- 1 5日 第13回 COI 特別講演会を開催
- 2 2日 弘前大学起業家塾（第5回）を開催



---

## 学内規則

(平成27年12月9日改正)

(一部改正)

### ○国立大学法人弘前大学職員安全衛生管理規程

労働安全衛生法の一部改正に伴い、心理的な負担の程度を把握するための検査等実施について規定し、併せて当該検査実施に係る産業医の職務の見直し等を行うため、上記の規程を一部改正した。

(平成27年12月14日改正等)

(一部改正)

### ○弘前大学学則

### ○弘前大学医学部規程

(制定)

### ○弘前大学教養教育履修規程

(廃止)

### ○弘前大学 21 世紀教育履修規程

①本学の学部の教育課程のうち、「21 世紀教育」として実施してきた教養教育について、主体的・能動的学習への転換及び地域志向性の涵養などを目的として、平成 28 年度から新たに「教養教育」として実施することに伴い、その履修等に関し、必要な事項を定める。

②医学部医学科について、専門職業人である医師の養成教育の体系的かつ計画的な実施体制を確保することにより、教育効果の向上を図るとともに、学生に学修目標や進路を明確化する機会を付与する観点から、在学期間の在り方を見直す。

(平成27年12月14日改正)

(一部改正)

### ○弘前大学教員免許状更新講習実施規程

免許状更新講習規則の一部改正により「選択必修領域」が創設されたことに伴い本学において実施する当該講習においても、「選択必修領域」設けるため、上記の規程を一部改正した。

(平成27年12月25日改正)

(一部改正)

### ○弘前大学医学部附属病院放射線障害予防規程

### ○国立大学法人弘前大学放射線安全管理規程

医学部附属病院における放射線障害防止に係る体制について、放射化物の取扱いを明確化するほか、放射線発生装置等に係る規定等の整理をすることで、放射線業務従事者等の放射線障害を防止及び公共の安全確保の向上を図るため、上記の規程を一部改正した。

弘前大学学報第141号

弘前大学総務部広報・国際課  
036-8560 弘前市文京町1  
電話 (0172) 36-2111